



新・駿河台記念館学員会がある18階からの眺め

◎女子学生キャリア支援の会の開催

女性白門会では11月26日(土)の2時から5時まで、女子学生キャリア支援の会、ウイングの会を中央大学キャリアセンターとの共催で開催した。今回は第28回目となる。対面とオンラインのハイブリッド形式で、対面会場は多摩キャンパスのFOREST GATEWAY CHUOを使用した。第一部の中央大学OGによる講演会においては、今回は読売新聞東京本社の編集局政治部サブキャップをしている森藤千恵さんをお願いした。メディアを目指した就職活動の経験や新聞社での仕事ぶりをお話いただいた。森藤さんの、好きな仕事だったら多少の嫌なことがあっても頑張れるという言葉が胸に響いた。第二部の内定女子学生の就職活動経験談には3人が、それぞれの就職活動の経験を話した。エントリーシートの書き方や各会社の人事部がどこに興味を持つかなどの実話的な話が聞けた。参加者は50名ほどであったが、女性白門会のメンバーも参加し、後輩とのつながりを感じた1日であった。

(植野妙実子)



●白門中央Web版の総合政策2年生の谷井花蓮さんのレポートを転載します。

就職活動に不安を感じている私にとって、今回のセミナーはとても有益なものでした。第1部で、読売新聞東京本社政治部で活躍する法学部OGの森藤千恵さんの講演会を聞き、就職活動で最も重要なことは「自分を知る」ということだと感じました。「自分を知る」ことが、自分に合った仕事を見つけることにつながります。森藤さんは学生時代に好きなこと150項目を紙に書き、そこから将来やりたいことを考えたといいます。

講演でのお話から、自分を知るためにも、さまざまなことに挑戦し、多様な価値観に触れることが大事だと気づかされました。具体的には、いろいろな場所を訪れ、多くの人に会うことが自己を知るきっかけになり、自由な時間がある学生のうちに積極的に行動し、価値観を広げることを勧められました。

第2部では、実際に就活を経験した4年生3人から具体的な話を聞き、将来の仕事を選択する際に重要なことが何かを知りました。特に印象に残っているのは個人情報保護委員会(国家公務員一般職)に内定された総合政策学部4年の平栗麻衣さんの行動力です。自分が望む条件を満たした就職先を見つけるには、行動



力が欠かせません。その上で、平栗さんは女性が働く上での環境や制度を重視されていました。男女の就職率や職種の差がないかを情報収集し、女性活躍推進に関するデータベースを通して制度が整っている組織や企業を絞っていました。

さらに、男性育休取得率に関する質問を担当者に直接投げかけ、中大OB、OGに育休を取得した際の周囲の反応や様子などを尋ねたといいます。こうした積極的な行動力が、自分に合った就職先を見つけることに結び付けました。

3人が就職先を決めたそれぞれの理由は違います。しかし、就活に際して何を重視し、大切にするかという「自分の軸」は無理やり決めたのではなく、考えを深めるにつれて決まってきたということが共通していました。

これまでの自分を顧みるライフラインチャートを作ったり、他者からみた自分の姿を尋ねたり、企業のエントリーシートを書いたりすることが、将来について考える良い機会になったといいます。現在、「自分の軸」が決まっていなかったらといって、必ずしも不安を感じる必要はなく、じっくりと定めていきたいと私は感じています。

セミナーで具体的な就活の流れや取り組む姿勢など全般を把握し、卒業後の将来のために「今を一生懸命に生きることが大切だ」とも実感できました。森藤さんは「就活(面接)は自分の価値への評価ではなくマッチング」と話されました。

私は「自分を深く知る」ということがまだ十分ではありません。これを機にどんな働き方をしたいのか、働く上での条件の優先順位は何なのかなどのキャリアプランを意識しようと考え始めています。

◎新年会開催



1月21日午後5時より、本当に久しぶりに女性白門会新年会が開催されました。中大OBの東京都観光汽船の守谷社長のご協力のもと、東京湾クルーズ船上で食事を楽しむという夢のような企画が実現しました。

寒さが心配されましたが、船内は暖かく、デッキに出て、美味しい料理とお酒のせいかさ程寒くなく、冬の澄んだ空気で一層くっきり見える東京の夜景を堪能できました。港白門会根岸支部長はじめ、南甲俱樂部会員、法学部講師の作曲家二宮玲子先生にもご参加いただき、大いに盛り上がりました。

今後も他の白門支部の方とも交流する機会を作り、共に中央大学を盛り上げていけたらと思います。

(仙石恵子)

